



工業会



The Japanese Association For Non-Destructive Testing Industry (JANDT)

発行元 一般社団法人日本非破壊検査工業会
 〒101-0047
 東京都千代田区内神田2丁目8番1号 富高ビル3F
 電話 03-5207-5960 FAX 03-5207-5961
 URL : <https://www.jandt.or.jp/>
 編集 : 広報部会

機材支部技術委員会 令和7年度 NDT 塾 開催

機材支部技術委員会(鈴木啓之委員長)は、「基礎原理からその応用事例」をテーマに令和7年度NDT塾を2月20日(金)に開催した。前回同様にウェビナー(オンライン)で開催し、全国から35名(会員27名、非会員6名、学生2名)が受講した。

NDT塾は、非破壊検査の7つの技術(PT・MT・ET・TT・AE・UT・RT)について、職業能力開発総合大学の小坂大吾教授はじめ機材支部技術委員会委員が所属する機材メーカーや販売代理店のベテラン技術者・技術営業員を講師に招き、各技術における基礎原理や応用事例などについて多くの画像を交えながら説明・紹介を行うもので、今回で6回目を迎えた。

座長を務めた熊谷啓三副委員長は、「NDT塾は、非破壊検査に携わる皆さまが、立場や経験に関係なく、学び合う場として開催しています。普段は、ご自身の専門分野を中心にしたお仕事かと思いますが、今日はずいぶん、普段触れる機会のない分野についても、『なるほど』『そういう考え方もあるのか』と感じていただければ幸いです」と挨拶した。

1講座目は浸透及び磁粉探傷試験について、相村英行講師(英進化学)より、浸透探傷試験の基礎、各種染色浸透探傷剤の特長と各処理における操作の検出性への影響などについて、また、磁粉探傷試験の基礎、各種磁粉探傷法、複合磁化法などについてご講演をいただいた。

2講座目は渦電流探傷試験について、小坂大吾講師(職業能力開発総合大学)より、渦電流探傷試験の原理について、実験による詳細な原理の紹介やシミュレーションによる磁束と渦電流の可視化による解説、応用事例のご紹介、派生技術として交流電磁場測定法(ACFM)のご紹介など、多様な構成でご講演をいただいた。

お昼休憩のあと、3講座目は赤外線サーモグラフィについて、福元一輝講師(フリーシステムズジャパン)より、赤外線についてのご紹介、放射率と反射率、画素数や温度分解能、用途、そして最後に適用事例のご講演をいただいた。



NDT塾の模様

4講座目はAE試験について、木村将人講師(IHI検査計測)からAE試験の歴史や原理のご紹介、引張試験、疲労試験、回転機器の監視、腐食評価、健全性試験、電気化学反応のモニタリングなど非破壊検査の分野を超えた多様な適用事例のご講演をいただいた。

5講座目は超音波探傷試験について、中川真一講師(ベーカーヒューズ・エナジージャパン)から、超音波の特徴に関する詳細なご紹介、探触子、超音波探傷の種類と探傷事例のご紹介、フェーズドアレイの基礎と多様な適用事例のご講演をいただいた。

6講座目は放射線透過試験について、栗原基次講師(富士フィルム)と結城翔講師(ポニー工業)からご講演をいただいた。栗原講師から、フィルムRT、CR、DDAの原理、像質の評価、適用事例のご紹介、次に結城講師から、放射線透過試験の原理と特徴、放射線源の種類、放射線透過試験の応用事例についてお話しいただいた。

講義終了後のアンケートには22名からの回答があり、22名全員が「おおいに参考になった」・「参考になった」と答えた。また、時間配分はちょうどよいが、各試験の適用事例やもっと深掘した内容を聴きたいといった要望が多く寄せられた。

NDT塾講義テーマ：基礎原理からその応用事例	
講座名	講師(敬称略)
NDT塾開催のご挨拶	座長：熊谷 啓三 (検査技術研究所)
1 PT：浸透探傷試験 MT：磁粉探傷試験	相村 英行(栄進化学)
2 ET：渦電流探傷試験	小坂 大吾 (職業能力開発総合大学)
3 TT：赤外線サーモグラフィ	福元 一輝(フリーシステムズ)
4 AE：Acoustic Emission試験	木村 将人(IHI検査計測)
5 UT：超音波探傷試験	中川 真一 (ベーカーヒューズ・エナジージャパン)
6 RT：放射線透過試験	栗原 基次(富士フィルム) 結城 翔(ポニー工業)

NDT工業会加盟の令和6年度検査会社131社の経営実態

令和7年度の会員登録票及び売上の調査結果よりまとめた。

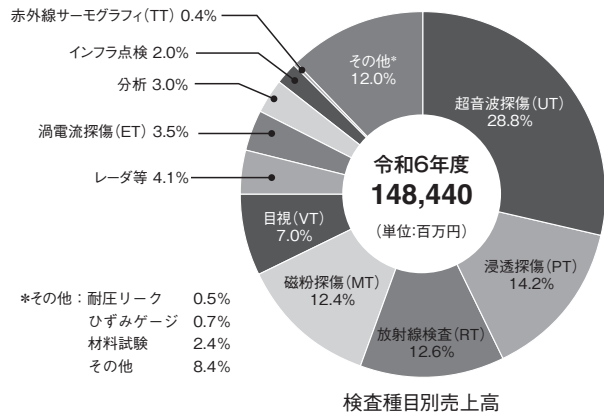
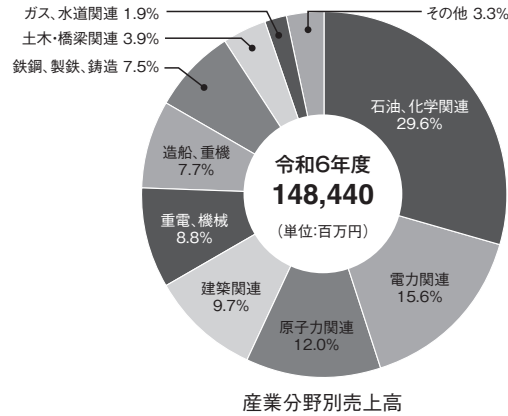
1.1 会員数、従業員数、売上高の推移

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
会員数(社)	162	165*1	164*1	163*1	160*1
(対前年度比)	(+1)	(+3)	(-1)	(-1)	(-3)
従業員数(人)	9,669	9,602	9,317	9,422	9,384
(対前年度比)	(+83)	(-67)	(-285)	(+105)	(-38)
売上高(百万円)	131,800	137,500	141,000	145,230	148,440
(対前年度比)	(-6,600)	(+5,700)	(+3,500)	(+4,230)	(+3,210)

*1 令和6年度(2024年4月~2025年3月)の会員数及び従業員数は令和7年7月1日現在の会員登録票による実数値

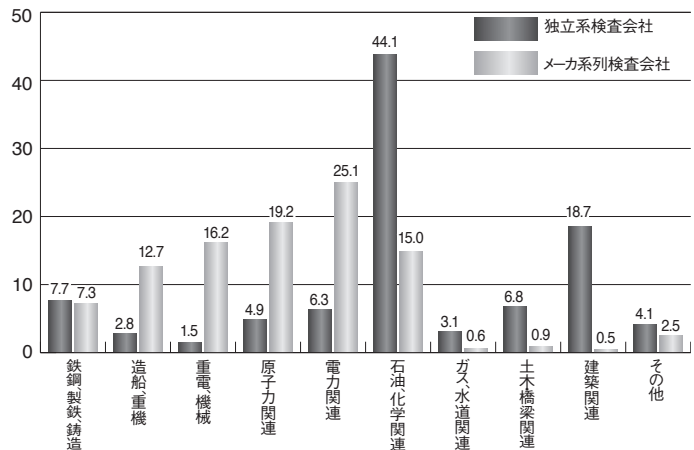
*2 売上調査に基づく推計値

1.2 令和6年度売上高に占める産業分類別及び検査種目別等の比率



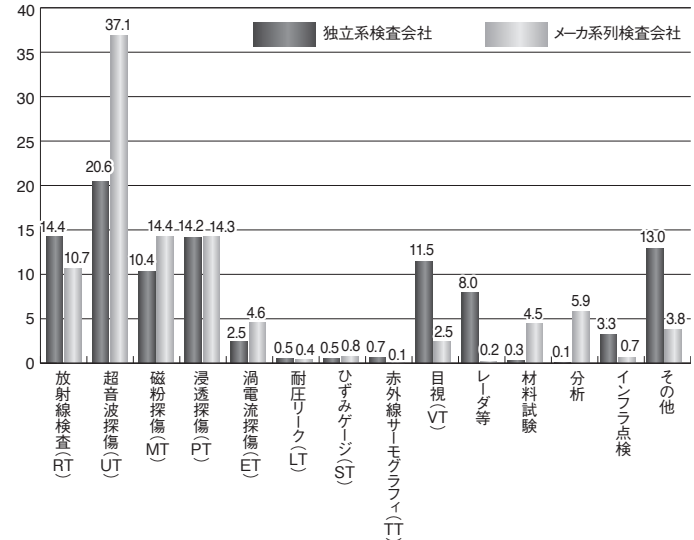
(1) 産業分類別 ※売上調査と合せた推計値

産業分野 (右カッコ内は前年参考)	令和6年度 売上高比率 (%)		
	全検査会社	独立系検査会社	メーカー系列検査会社
鉄鋼、製鉄、鋳造	7.5 (8.6)	7.7 (8.0)	7.3 (9.3)
造船、重機	7.7 (9.3)	2.8 (3.0)	12.7 (17.5)
重電、機械	8.8 (8.6)	1.5 (1.7)	16.2 (17.7)
原子力関連	12.0 (6.5)	4.9 (2.8)	19.2 (11.3)
電力関連	15.6 (13.8)	6.3 (6.5)	25.1 (23.3)
石油、化学関連	29.6 (31.5)	44.1 (44.2)	15.0 (14.9)
ガス、水道関連	1.9 (2.4)	3.1 (3.6)	0.6 (0.8)
土木・橋梁関連	3.9 (4.3)	6.8 (6.6)	0.9 (1.3)
建築関連	9.7 (11.3)	18.7 (19.5)	0.5 (0.5)
その他	3.3 (3.7)	4.1 (4.1)	2.5 (3.4)
合計	100.0	100.0	100.0



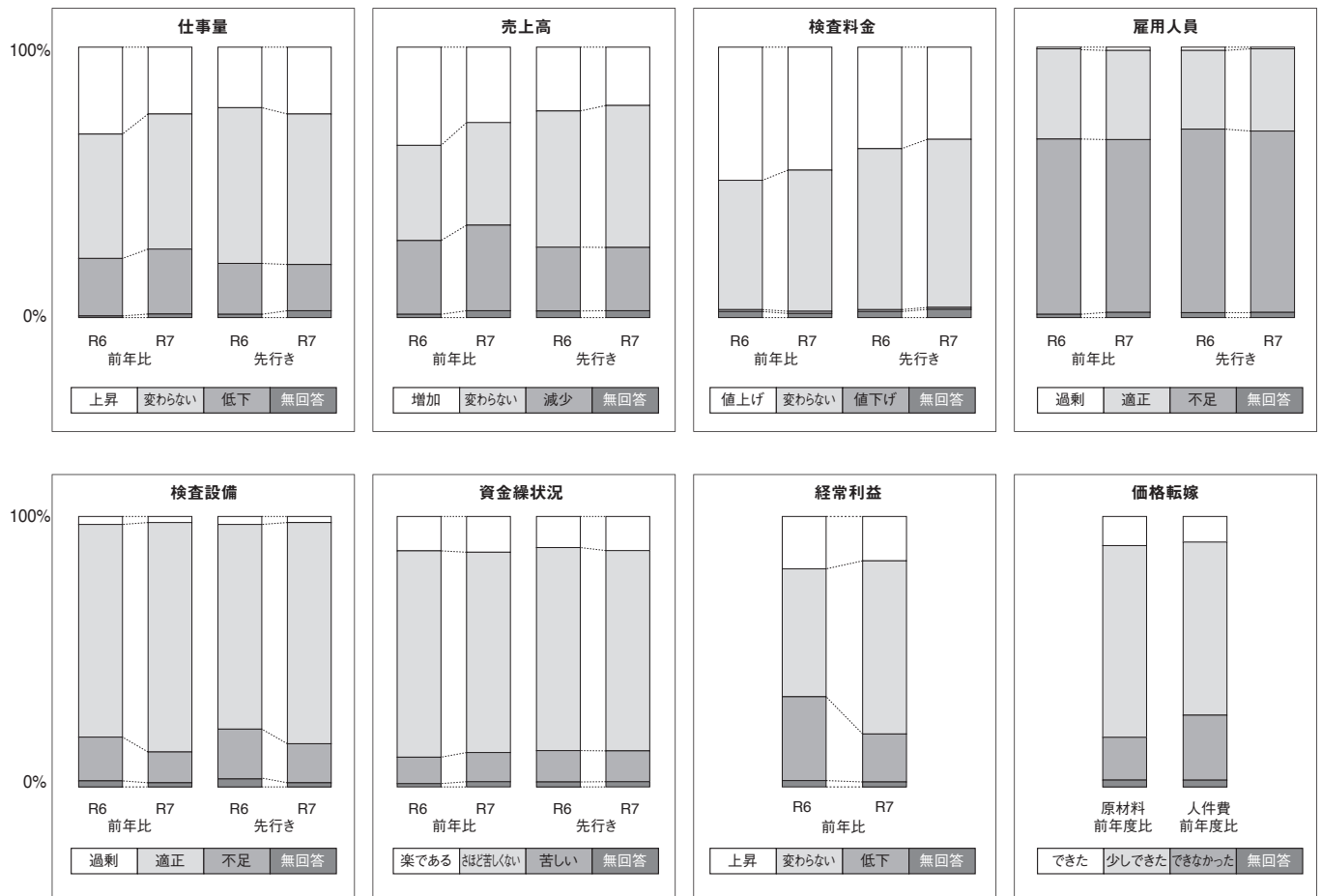
(2) 検査種目別

検査種目 (右カッコ内は前年参考)	令和6年度 売上高比率 (%)		
	全検査会社	独立系検査会社	メーカー系列検査会社
放射線検査(RT)	12.6 (14.2)	14.4 (15.8)	10.7 (12.4)
超音波探傷(UT)	28.8 (27.7)	20.6 (21.2)	37.1 (34.8)
磁粉探傷(MT)	12.4 (12.6)	10.4 (10.0)	14.4 (15.4)
浸透探傷(PT)	14.2 (15.0)	14.2 (15.3)	14.3 (14.7)
渦電流探傷(ET)	3.5 (3.7)	2.5 (2.5)	4.6 (5.0)
耐圧リーク(LT)	0.5 (0.5)	0.5 (0.4)	0.4 (0.5)
ひずみゲージ(ST)	0.7 (0.7)	0.5 (0.5)	0.8 (0.9)
赤外線サーモグラフィ(TT)	0.4 (2.9)	0.7 (5.5)	0.1 (0.1)
目視(VT)	7.0 (4.2)	11.5 (5.5)	2.5 (2.8)
レーザ等	4.1 (3.6)	8.0 (6.8)	0.2 (0.2)
材料試験	2.4 (1.8)	0.3 (0.2)	4.5 (3.5)
分析	3.0 (2.8)	0.1 (0.2)	5.9 (5.6)
インフラ点検	2.0 (2.2)	3.3 (3.1)	0.7 (1.2)
その他	8.4 (8.1)	13.0 (13.0)	3.8 (2.9)
合計	100.0	100.0	100.0



令和7年の非破壊検査業界の景気動向調査

会員企業194社を対象に実施し、158社より回答を得た。



豊かな経験・確かな技術

非破壊検査全般 ◆ 建築物設備配管劣化診断 ◆ コンクリート躯体調査・埋設物調査

JASCO 株式会社 ジャスコ
JAPAN SKIAGRAPH CO., LTD.

本社 〒222-0033 横浜市港北区新横浜1-23-3
TEL 045(473)5140 FAX 045(473)5141

札幌営業所 〒003-0833 札幌市白石区北郷3条11-4-20
TEL 011-875-4166 FAX 011-875-0666

E-mail: eigyou@kk-jasco.co.jp https://www.kk-jasco.co.jp/

アンカー工事
スタッド工事
耐震補強
引張試験
鉄筋探査
レントゲン

ダイヤモンド販売
ハンドカッター販売
カップサンダー販売
道路用ブレード販売

社団法人日本建設あと施工アンカー協会加盟

中央総業株式会社

神奈川県相模原市南区相模大野3-20-1 中央総業ビル4F

☎ 0120-07-1222 FAX 0120-07-5585

安全で安心な
生活環境を
目指して
非破壊検査と焼鈍工事の

ユキビルド 株式会社

〒210-0808 川崎市川崎区旭町 1-9-10
TEL:044-222-3222 FAX:044-201-6532

お客様と社員に信頼される
企業でありつづける

溶接検査株式会社

本社：〒985-0853
宮城県多賀城市高橋4丁目13-1
TEL：022-352-3459
FAX：022-352-3460
URL：http://yosetsukensa.com

出張所：山形・秋田

西日本支部 令和7年度アンケート要請による講座を開催

令和8年2月6日(金)、西日本支部(清水重之支部長)は、昨年よりウェビナーにて全国の会員に向けて案内を送り、事前申し込みによる形で無料開催している「アンケート要請による講座」を開催した。

今年度はエビテント・インスペクション・テクノロジーズジャパン株式会社の山本優一郎氏を講師に招いて「PAUTのデュアルマトリクス、リニアアレイプローブによる事例紹介」として通常困難と言われているオーステナイト系ステンレス溶接部への適用について約2時間に亘る講演が行われた。

オーステナイト系ステンレス溶接部内での超音波の挙動や反射の様子など実際の事例を交えての内容に48名の参加者の関心も高かった模様で、事後のアンケートにも多くの意見が寄せられていた。

以前は西日本支部の会員向けに対面で行っていたが、移動距離や日時の都合がつきにくい等の問題があり、参加者が減ってきていた状況の中、昨年より西日本支部に限らず全国の会員に向けて無料でWEBによる形に変更してからは約50名近くの参加があり会員サービスの向上に貢献している。

来年度以降もアンケートを実施して様々な内容の講演を発信していく予定である。



清水重之
西日本支部長



金子哲也
支部教育委員長



山本優一郎
講師

オーステナイト系金属

粗粒/オーステナイト系金属の検査手法

オーステナイト系金属は優れた耐食性と高い延性で知られる合金の一種です。これらの材料は主に鉄、クロム、ニッケルで構成されており、建設から航空宇宙産業に至るまで広く用いられています。

- ・ ステンレス鋼, Stainless Steel
- ・ 二相ステンレス鋼, Duplex Stainless Steel
- ・ インコネル, Inconel
- ・ 耐食性合金, Corrosion Resistant Alloys (CRA)
- ・ 異材溶接, Dissimilar Welds

概要

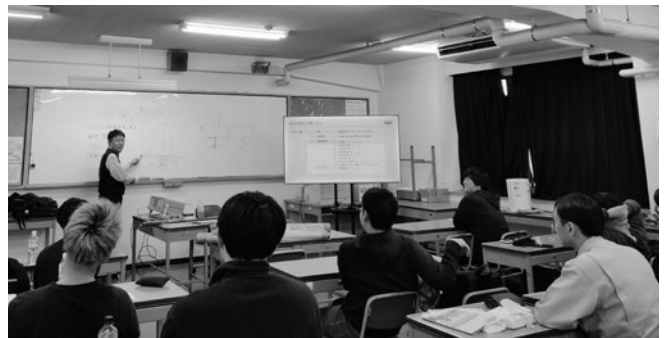
- ・ クラッド鋼、異材溶接、オーステナイト系金属：いずれも超音波探傷において「超音波」「散乱」「反射」「減衰」などの課題を抱えています。
- ・ 全ての材質に対する完全な解決策はありません。特定のオーステナイト系金属を検査するためには専用の「手廻」「校正」「ソフトウェア」「プローブ」「ウェッジ」が必要となります。
- ・ 溶接部・ドーナツ、検査アクセス部位の制限、形状による制限など実際の現場で想定される要素を考慮すると検査はさらに困難になる場合があります。

日本溶接構造専門学校への講師派遣

当工業会技術部会(安田裕之技術部会長)は、日本溶接構造専門学校(日本溶接技術センター内)の要請により、各種非破壊検査技術に関する授業の講師として5名を派遣した。日本溶接構造専門学校は、溶接技術・非破壊検査技術を基礎とし各種「ものづくり」の中高級技術者を養成する日本唯一の専門学校である。

授業内容は、渦電流探傷検査(渡邊正宏講師)、配筋探査(前田悠吾講師)、工業内視鏡(坂本伊久磨講師、白石真嵩講師)、ドローン(平手克治講師)の4種類を8名が受講した。

受講者からは、「交流を流したコイルを導体に近づけると、コイルの周囲に生じた磁界が導体に作用することで塗装の上からでも渦電流探傷検査(ET)ができることにとっても驚いた」、「コンクリートを壊さず内部を探索できる鉄筋探査機で鉄筋や水道管、ガス管を見つけることができ、アンカー等の穴を開ける時に役立つと勉強になった」、「本で学ぶより実際に探傷する場面を見て理解が深まった」など、有意義で貴重な授業となった。



ET授業風景

技術と信頼であらゆるニーズにお答えします

"High Quality Inspection Service"



株式会社 アイ・エム・シー

- 事業内容 ■ 非破壊検査全般 ■ タンク・プラント保守検査
■ インフラ点検全般 ■ 品質管理業務

認定 (一社)日本溶接協会(CIW)認定 A種
ISO9001 認証 JMAQA-1790
一般建設業許可 国土交通大臣許可(般-6)第23267号 他
本社 〒652-0898 神戸市兵庫区駅前通5丁目3番14号
TEL 078(577)3691 FAX 078(576)2008
URL <https://imc-ndi.com>
事業所 千葉事業所/中部事業所/関西事業所

CIW認定 A種
労働者派遣事業許可
ISO9001認証 JMAQA-1749

想像から創造へ 今感動の技術



株式会社 ダンテック

- 非破壊試験検査全般 ■建築・土木構造物調査診断
■各種プラント保守点検 ■各種設備・配管劣化調査
■品質管理 ■破壊試験・化学分析等材料試験

本社 〒530-0043 大阪市北区天満4丁目14番13号
TEL 06-6354-3641 FAX 06-6354-2707
<https://www.dantec.co.jp/>

「NDI レベル2資格取得のための受験対策セミナー」を開催

東日本支部及び関西支部は、NDIレベル2受験者を対象に、JSNDI春期一次試験対策のセミナー（RT、UT、MT・MY、PT・PD・ET）を開催した。経験豊富なベテラン講師陣による出題傾向を的確に把握した受験対策セミナーで、受講者の理解力も大いに深まり、その結果、これまでに当セミナーの受講者の合格率は非常に高く推移している。

また、MT2及びET2はオンライン併用で開催した。

主催	受講者数	実施日	対象
東日本支部	29名	2/28～3/10	UT2、MT2、PT2、RT2、ET2
関西支部	29名	3/7	RT2、UT2、MT2・MY2、PT2・PD2



セミナーの様子

機材支部UT分科会、フェーズドアレイ超音波探傷器講習会を開催

機材支部UT分科会（砥嶋浩彰委員長）は1月27日～28日の両日、川崎市の日本溶接技術センターで「第20回フェーズドアレイ超音波探傷器講習会」を開催した。今回の講習会ではテキストや講義内容の見直しを行い、積極的に最新技術を取り入れた講義内容となった。

両日とも午前中は座学、午後は実機を用いた実技講習を行い、座学ではフェーズドアレイの用語説明などの基礎から設定方法、校正方法、実際の探傷方法などの説明を行った。また（一財）発電設備技術検査協会の上山様によるフェーズドアレイの適用事例の紹介では、最新技術であるマトリクスアレイやFMC/TFMなどまだまだ普及していない手法の説明や、原子力分野や航空機、鉄道車軸などへの適用事例の紹介など、貴重な講義を受講することができた。

実技講習では国内主要メーカーが合計11台のフェーズドアレイ探傷器と様々なスキャナを持ち込み、設定方法や校正方法、溶接試験体の探傷を体験した。またエンコーダーを使用したCスキャンや専用スキャナを使用した腐食検査など各社趣向を凝らした実技講習を行い、受講生はフェーズドアレイ探傷の有効性と今後の発展性に触れることができた。

受講者した19名からは色々なメーカーの探傷器を見ることができてためになった、レベルが高く参考になった、くわしい使い方や言葉に意味について知識を増やすことができたなど好評で、非常に充実した2日間となった。



座学講習のよう



実技講習のよう

【講習会等の開催情報】

配筋探査実技講習会	[教育部会]	1月20日～22日	リロの会議室水道橋（東京）	受講者 41名
		2月3日～5日	新栄ビル（大阪）	受講者 33名

【講師派遣情報】

危険物保安技術協会 「コーティング上からのタンク底部板厚測定講習会」 東京会場 5日間:2月16日～20日、大阪会場 3日間:3月4日～6日



CIW検査事業者認定 C種
労働者派遣事業

安全を見つめています

アトミックス工業株式会社

営業種目：非破壊検査全般
インスペクター・品質管理
各種監督業務・調査業務等

本社 〒731-0103 広島県広島市安佐南区緑井1-28-45
TEL 082-870-3131 FAX 082-870-3210
URL <http://www.atm-kogyo.co.jp/>
E-mail honsya@atm-kogyo.co.jp

福山営業所 〒721-0963 広島県福山市南手城町3-17-17
TEL 084-928-4533 FAX 084-944-5005
E-mail fukuyama@atm-kogyo.co.jp



“診る”を究めて
人と技術を「安全」という強固な絆で
結び、「安心」を提供します。

新日本非破壊検査株式会社

営業本部 〒803-8517 北九州市小倉北区井堀4丁目10番13号
TEL:093-581-1234 FAX:093-581-4567

東京営業部 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町16-9
aLATO日本橋小伝馬町 3階
TEL:03-6661-1307 FAX:03-6661-1308
<https://www.shk-k.co.jp>



交流電磁場測定法の調査検討

1. はじめに

「新技術を活用した屋外貯蔵タンクの効果的な予防保全に関する調査検討」(令和7年度、消防庁)*では、新技術を新たに適用する場合の仕組みを調査検討した。その際、屋外貯蔵タンク底部の炭素鋼溶接部をコーティングがある状態で探傷する新技術として交流電磁場測定法(以下、ACFMという。)をテーマとして取り上げて検証を実施した。

ここでは、ACFMの測定原理、きずの検出性、溶接部への適用性、今後の課題等について概要を述べるが、詳細は、末尾の消防庁「新技術を活用した屋外貯蔵タンクの効果的な予防保全に関する調査検討報告書」の公表を参照されたい。

2. 交流電磁場測定法の原理

ACFMの原理を、渦電流探傷法(以下、ETという。)との比較で説明する。

ETは、きずを迂回する渦電流により変化する磁束の変化をコイルで検出し、リサージュ波形として出力する(図1参照)。出力信号からは、振幅と位相の情報が得られる。この時、発振と検知を一つのコイルでおこなう方式を自己誘導方式、発振と検知を別なコイルで分担する方式を相互誘導方式という。

一方ACFMは、ETにおける一様渦電流方式と同様に、大きな励磁コイルと B_x 、 B_z の二つの検知コイルを有する構造を特徴とする(図2参照)。

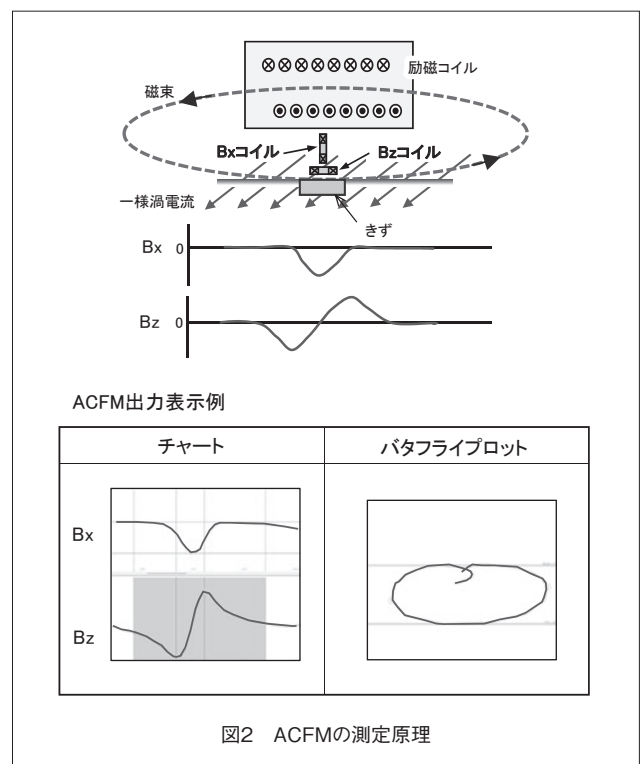
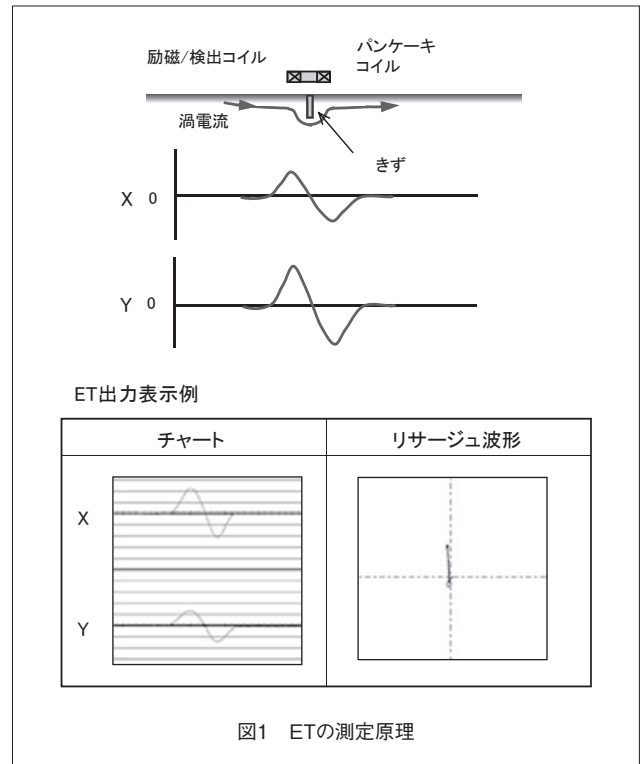
- ・ B_x コイル: 水平方向の磁束を検出するコイル
- ・ B_z コイル: 垂直方向の磁束を検出するコイル

この二つのコイルの信号を合成することで、きずの信号がある場合、バタフライプロットと呼ぶ特徴的な波形が観察できる。ACFMは、バタフライプロットの有無によりきずの有無を識別できることを特徴とするETの一つの手法である。

3. きずの検出性

平板に付与した長さ4mm×深さ1.5mmのスリットを用い、プローブとスリットのなす角度の影響と、プローブとスリットのオフセットがある場合の影響を確認した結果を図3と図4に示す。スリットのなす角度及びオフセットがある場合は、検出感度の低下があることが確認される。

また、平板に付与した長さ3mm、4mm、5mmのスリット(各々深さ1mm、1.5mm、2mm)の出力値(B_z)を、スリットの断面積を横軸にして表したものの事例を図5に示す。コーティングの厚さを模擬したリフトオフを0mm、1mm、2mmで探傷した結果、断面積と出力値には正の相関があることが確認できる。屋外貯蔵タンク溶接部の保安検査基準は、長さ4mm×深さ1.5mm(断面積6mm²)であり、出力値で評価できることが確認できる。なお、出力値は、スリットとプローブの角度、スリットとプローブのオフセット、リフトオフ等の要因に影響されるので、予め特性を把握しておくことが必要である。



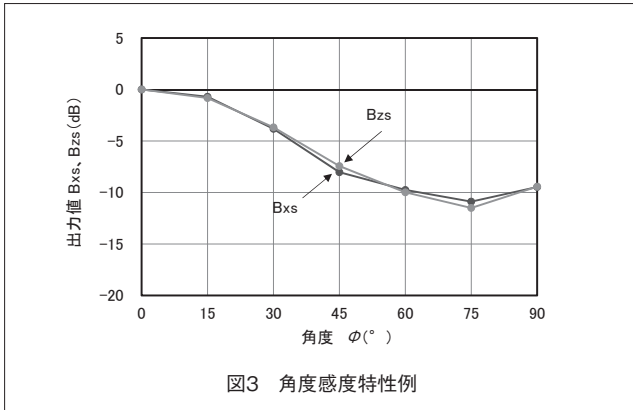


図3 角度感度特性例

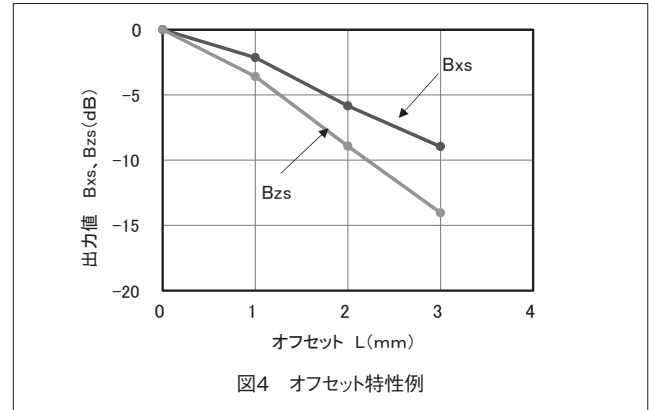


図4 オフセット特性例

4. 溶接部に対する適用性

検査対象の溶接部は、突合せ継手や重ね継手等があり、かつ余盛の形状が多様である。一方、ACFMはETと同様に余盛の形状による影響を受け、検出性が低下する傾向がある。したがって、ACFMを溶接部に適用する場合には、検査対象を模擬した溶接試験片を製作し、その試験片の止端部や余盛部に基準スリットと同じ寸法のスリットを付与し、その検出性を確認する必要がある。また、コーティングがある場合は、その厚さを測定し、その厚さを模擬して検出性を確認することが重要である。

また、溶接部へのACFMの適用に際しては、励磁コイルや検出コイルの大きさ、コイルの位置や配置、励磁電流の大きさ、プローブの寸法やマルチプローブの場合は各chが上下して接触する機構などを考慮して、適するプローブを選択することが大切である。特に、溶接部表面とプローブ間のギャップは、検出性に影響を及ぼすことに留意すべきである(図6参照)。

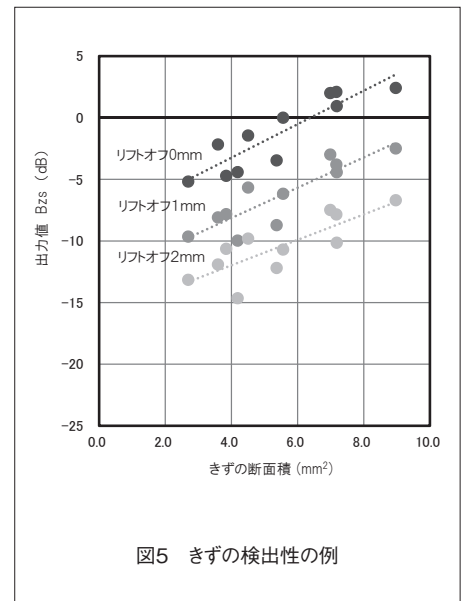


図5 きずの検出性の例

5. 今後の課題

ACFMは、欧米では備蓄タンクや橋梁などの鋼構造物などに適用されており、検査の効率化に寄与している。ACFMによる探傷時の基準スリットは、ASTM E2261 (Standard Practice for Examination of Welds Using the Alternating Current Field Measurement Technique) の場合、一例をあげれば、長さ10mm (または20mm) × 深さ2mm (矩形) となっている。一方、国内では、今回の屋外貯蔵タンク底部溶接部の保安検査の一つの手法としてETを調査検討したが、合否基準は長さ4mm × 深さ1.5mmであり、欧米基準より小さな寸法である。

ACFMはET技術の一つであり、コーティングの上からの探傷が可能で、かつバタフライプロットによりきずを抽出できる手法であり、効率的な保安検査に対する事業者の期待は大きい。この期待に応えるためには、欧米で適用されている基準より小さな寸法のスリットを検出する必要があり、プローブやデータ処理等の更なる開発が求められる。

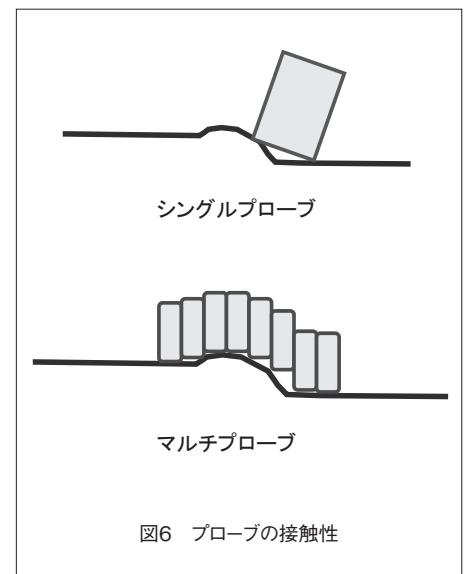


図6 プローブの接触性

※消防庁「新技術を活用した屋外貯蔵タンクの効果的な予防保全に関する調査検討報告書」の公表
https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/2603025_kiho_1.pdf

問合せ先：一般社団法人日本非破壊検査工業会 シニアエンジニア 塙 晴行
 TEL：03-5207-5960 FAX：03-5207-5961 hhanawa281@jandt.or.jp

2025年度後期 インフラ調査士講習会・資格認証試験 受験者情報

【実務(二次)試験結果】

1月28日～29日 会場:川崎市産業振興会館(川崎市幸区)

資格	橋梁(鋼橋)	橋梁(コンクリート)	トンネル	付帯施設
受験者数	35名	33名	42名	44名
合格者数	31名	27名	30名	42名

2025年度後期配筋探査技術者資格認証試験 受験者情報

2月に実施した後期配筋探査実技(二次)試験の受験者数と合格率及び2026年度前期資格認証試験日程は次のとおりです。

2025年度後期配筋探査技術者(土木)実技試験結果		関東	関西	受験者合計	合格者	合格率
2025年度後期配筋探査技術者(土木)実技試験結果	土木(電磁波レーダ法)	77名	52名	129名	103名	80%
	土木(電磁誘導法)	67名	43名	110名	94名	85%
2025年度後期配筋探査技術者(建築)試験結果	建築	25名	—	25名	25名	100%

2026年度前期 配筋探査技術者(土木)資格認証試験日程

	関東(学科:東京、実技:川崎)	関西(大阪)
学科(一次)試験	5月28日	5月28日
実技(二次)試験	8月25日～27日	8月17日～19日

2026年度前期 配筋探査技術者(建築)資格認証試験日程(試験会場:関東)

建築学科講習・建築修了試験(eラーニング)	5月8日～5月27日
建築実技講習・建築実技試験(同日開催)	6月23日～6月26日

会員動向 令和8年3月31日 現在192社(東日本支部77社、関西支部42社、西日本支部40社、機材支部33社)

入会 ■西日本支部 大分N.D.T株式会社 代表取締役 中川博貴
〒870-0919 大分県大分市新栄町13-1
電話:097-574-8264 FAX:097-502-4429 E-mail:info@o-ndt.com (令和8年3月1日付)

退会 ■西日本支部 ホンダテクニカ株式会社 (令和8年3月27日付)

本
部

EVIDENT

OmniScan X4、史上最高スペックへ128:128 対応

- 64:128モデルにオプション追加で128:128へアップグレード
- 本体上でマトリクスアレイプローブの設定が可能
- 応力腐食割れ(SCC)など複雑な検査で真価を發揮



ワブテック・インスペクション・テクノロジーズ・ジャパン株式会社
0120-255-072 ims.evidentscientific.com

サンコウの測定器・検査機器
新型鉄筋探知器 ReberEye

◆位置とかぶり厚を迅速探査! JASS5の検査に!

NEW



SANKO 株式会社サンコウ電子研究所
東京:03-3254-5031 大阪:06-6881-1230 仙台:022-292-7030
名古屋:052-915-2650 福岡:092-282-6801
URL https://www.sanko-denshi.co.jp

Pony 可搬式エリアモニタ PEMG



特徴

- ・内蔵バッテリーで連続8時間稼働
- ・防滴仕様で屋内外問わず使用可能
- ・検出器ケーブルは最長30m
- ・視認性の高い大型表示ディスプレイ

主な仕様

- ・測定線種: X線、γ線
- ・エネルギー範囲: 30keV~1.5MeV
- ・検出方式: GM管式
- ・測定範囲: 0.1~999.9μSv

※オーバーフロー時、エラー時は「999.9」点滅表示

ポニー工業株式会社
www.ponyindustry.co.jp

支える、の一番近くに。

RIKOH-S

非破壊検査機器の**販売・修理・校正・レンタル**



工業X線発生装置 超音波探傷器 USM38JE 超音波厚さ計 DM5E

カーリース(日本カーソリューションズ㈱代理店)
検査技術者の派遣(派34-300512)
お気軽にご相談ください。

理工サービス株式会社
〒733-0035 広島市西区南観音6丁目3番10号
TEL:(082)292-2552(代) FAX:(082)295-0566
E-mail:rikoh@rikoh-s.com URL:https://www.rikoh-s.com/